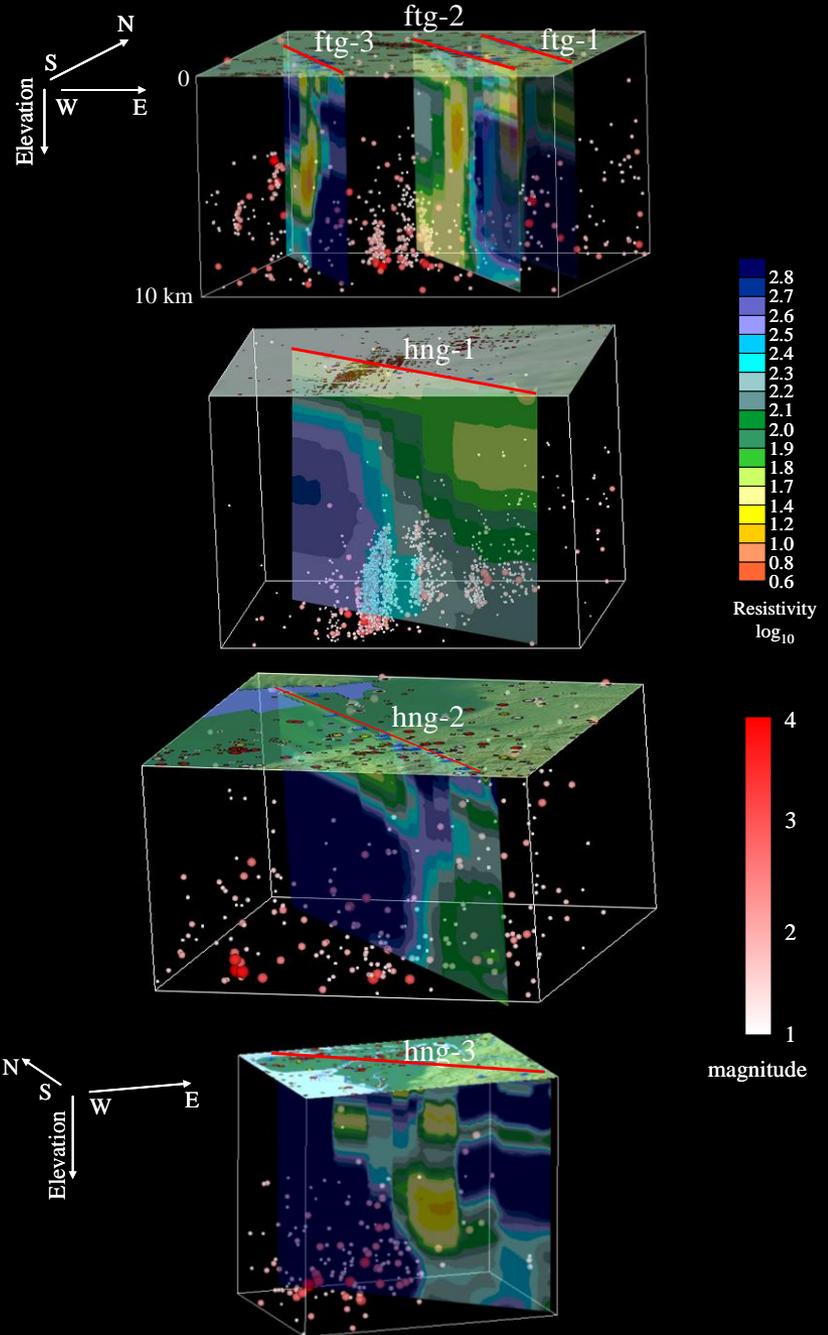
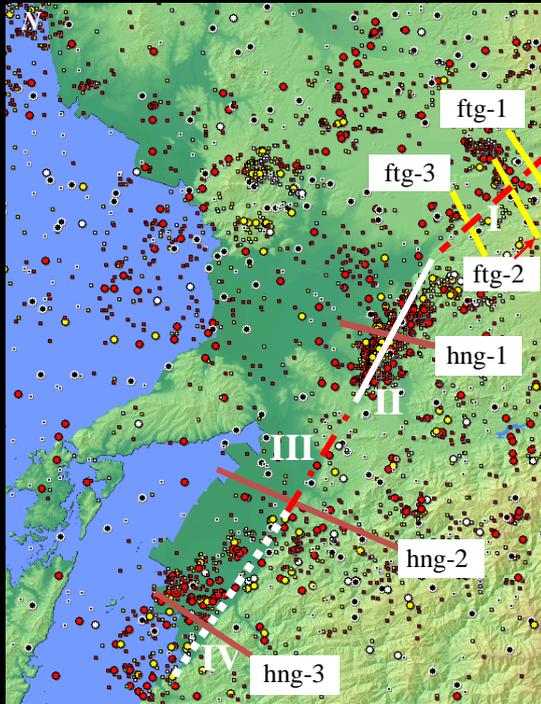


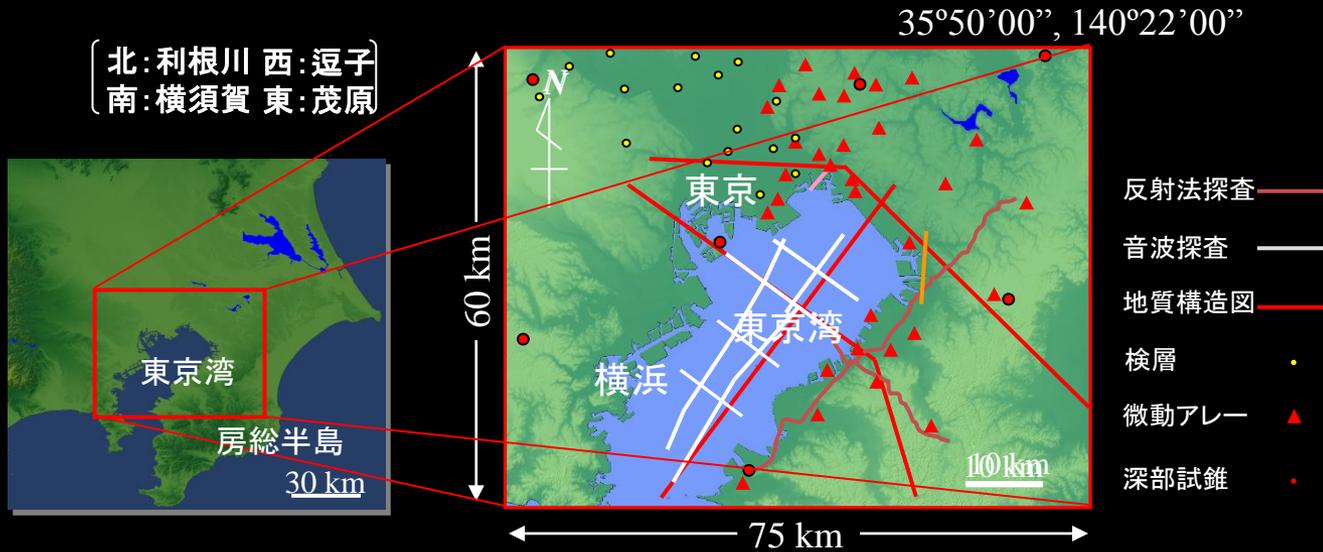
# MT法による活断層の活動度評価

## ▶ 震央分布図と重ね合わせ図

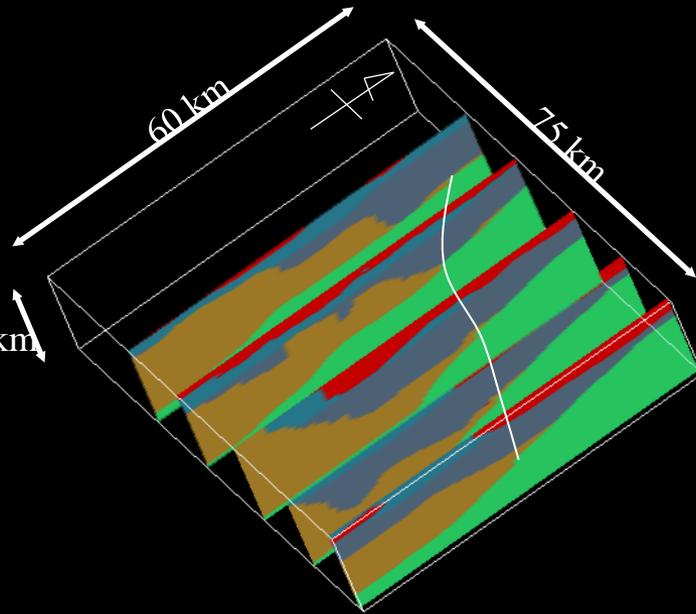
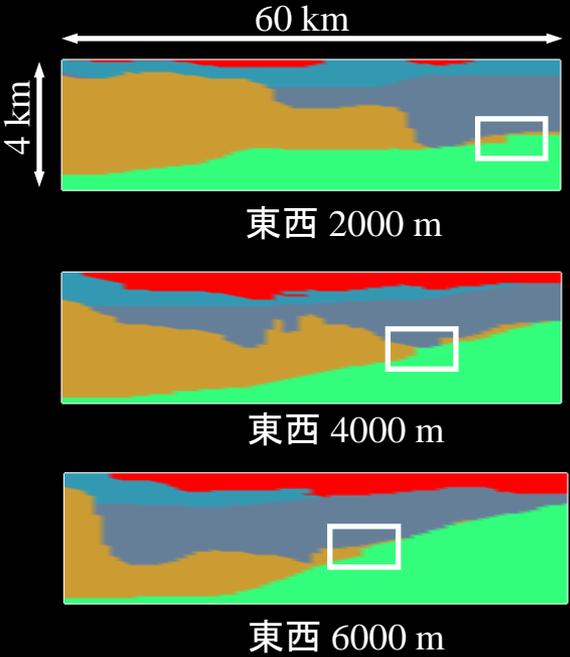


- ▶ 微小地震によって応力が開放されているため、歪エネルギーの蓄積は進まず布田川断層では大きな地震は発生しにくいと考えられる
- ▶ 規模の大きな地震を発生する可能性は区域IIIが最大であり、次いでIIが大きく、IとIVは小さいと推定できた区域IIIにはアスペリティの存在が考えられる

# 存在確率分布による3次元深部地質層序モデリング



35°18'00", 139°30'00"



解析で使用了した基盤モデルは、全体的に滑らかな構造を示すため解析後の結果で第三系基盤を変位させる断層は現れにくい。

標高-2000 m付近に100-200 m程の基盤変位部が確認できる。

第四紀以降の層序で確認できないため、活断層ではない。

- 下総層群
- 上総層群(中部)
- 上総層群(下部)
- 三浦層群
- 基盤